

10/10(月)

## 華麗に着飾るモデルたち

～おおずモダン着物コレクション2011～

オオズ☆ロケット団の主催による、おおずモダン着物コレクション2011が開催されました。会場となるおはなはん通りにはランウエーが出現し、本格的なファッションショーが演出されました。

子どものモデルによる可愛い着こなしから、女性が可憐に着飾る姿などに、大きな歓声や拍手が起きていました。中には、現代風の着こなしで観客を驚かせるモデルも登場し、型にはまらない雰囲気会場にいるみんなが楽しんでいました。

ファッションショー以外にも、花嫁道中や女子アナウンサーによるトークショーなども行われ、大洲の町をにぎわす1日となりました。



観客を魅了するモデルたち

## 秋のひと時を満喫

～今坊ふれあい祭り～

10/16(日)



うなぎを追いかける子どもたち

今坊しおさい広場としおさい館で、「今坊ふれあい祭り」が開催されました。これは、地域住民の交流と活性化のため毎年開催されているイベントで、今年で18回目を迎えるものです。

会場では、地元産の新鮮な海の幸・山の幸、つくたてのお餅などの出店が並んだほか、名物のうなぎのつかみ取りでは、小学生以下の子どもたちが特製のいけすに入り、悪戦苦闘しながら、うなぎを捕まえていました。

また、ステージではラムネの早飲み競争や歌謡ショー、獅子舞が次々に披露され、最後に餅まき・宝まきを行いました。会場は終日多くの人でにぎわっていました。

10/16(日)

## いざ、真剣勝負！！

～第9回 肱川自治運動会～

毎年恒例の肱川自治運動会が、肱川中学校屋外運動場で開催されました。

前日の雨でグラウンドコンディションが心配されましたが、当日は素晴らしい秋晴れのもと、延べ700人の選手が、元気に競技を行いました。

選手のみなさんは地区の代表として正々堂々、真剣勝負で競技に挑み、また応援するみなさんも力いっぱい声を張り上げての応援が行われ、運動会は大いに盛り上がりました。

今年度は最後まで優勝争いが続き、接戦を制した正山分館が見事総合優勝を果たしました。



どの種目も接戦に次ぐ接戦となりました

10/16(日)

## 秋だ!祭りだ! ~河辺ふれあいフェスタ2011~

河辺ふるさとの宿と周辺施設において「河辺ふれあいフェスタ2011」が開催されました。

今年もさわやかな秋空のもと、多数の来場者があり、ふるさとの宿では、各種出店、文化協会や幼稚園、小学校の発表会のほか、内子高校郷土芸能部OB・OGで結成されている「和達」のみなさんによる太鼓演奏、愛媛県警察音楽隊の演奏が披露されました。ふるさと生活館では、書道、絵画、陶芸、押し花など多くの作品が展示され、またお楽しみ抽選会、健康づくりコーナー、大洲警察署による振り込め詐欺防止などの啓発、パトカー・白バイの展示、林業機械の展示販売など、盛りだくさんの催しに、来場者は楽しい1日を過ごしていました。



愛媛県警察音楽隊による演奏

## 盲導犬を知ろう ~盲導犬学校キャラバン~

10/20(木)



息の合った連携を熱心に見入る生徒たち

大洲市社会福祉協議会と日本盲導犬協会島根あさひ訓練センターとの共催により、盲導犬学校キャラバンが開催されました。

このキャラバンは、目の不自由な人への理解を深めることを目的に、全国の小中学校を訪問するもので、この日は2頭のラブラドルレトリバーが<sup>しほの</sup>大洲東中学校を訪れました。

講師の佐々木重紀さんは、盲導犬の役割や、目の不自由な人の悩みなどを、生徒たちに分かりやすく教えていました。実際に目隠しをして、別の生徒に付き添ってもらった体験歩行をした生徒は、「怖かった」などと話し、盲導犬の必要性を再確認していました。

このキャラバンは、長浜、平、大和小学校でも開催され、生徒、児童たちにとって、盲導犬の役割について学習する良い機会となりました。

10/23(日)

## 3度目の大賞を狙って ~ふるさとCM大賞撮影風景~

大洲市で映像を通したまちおこし団体として活動している「ドラ・コミ・なんよ」の、ふるさとCM大賞の撮影が如法寺河原と臥龍山荘付近を舞台に行われました。

愛媛朝日テレビ主催の「ふるさとCM大賞えひめ」は、ふるさとCMを放送することで地域振興に寄与することを目的に平成17年度から始まり、今年で7回目になります。

「ドラ・コミ・なんよ」は、昨年は惜しくも賞を逃したものの、過去のCMで2度の大賞に輝いた実力団体です。この日の撮影では和やかな雰囲気の中にも、真剣に撮影に取り組む関係者のみなさんの姿が見られました。

審査会は来年の2月に開催され、大賞に輝いたCMは年間200回、放送されることとなります。



今年こそ3度目の大賞を狙います!

【がんばる市内企業の事業活動や事業展開を紹介します】

## (有)ひじかわ特産開発

～お客様のニーズを第一に考える～



弊社の前身である(有)ひじかわ特産開発公社は、昭和59年に設立し、特産品の開発や製造販売、食堂の経営などを行っていました。平成13年に道の駅「清流の里ひじかわ」が設立されたことを機に製造販売に特化し、現在の(有)ひじかわ特産開発に屋号を変更しました。

商品の販売経路は、高速道路のサービスエリアや市内の道の駅で、弊社の主力商品である「肱川らーめん」などを販売しています。

中でも、とんこつ風肱川らーめんは、「週刊女性自身」の全国お取り寄せラ

◇所在地 大洲市肱川町宇和川

◇電話 34-2675

## がんばる大洲企業

メンコンテストで、とんこつ大賞に選ばれる程、高い評価を得ています。

最近、食に対するお客様の関心が高く、特に安全で高品質な商品を求める風潮にあります。改めて食品を提供する企業としての重責を実感しています。

弊社では、お客様にいかに喜んでいただき、信頼していただけるとかという点について大切に考えています。従業員が食に対する高い意識を持ちながら、常に新しい商品開発に取り組んでいます。

今後も、「お客様のニーズを第一に考える」をモットーに、お客様に喜んでいただける食品を提供していきます。



## 文化財

伊予長浜豊年踊り  
大洲市指定無形民俗文化財  
伊予長浜豊年踊り保存会



大洲市長浜町の伝統行事である「伊予長浜豊年踊り」は、大正11(1922)年ごろに相生村下須戒(現大洲市長浜町下須戒)の川田時衛(当時21歳・農業)などが苦しい農民の暮らしに、明るく楽しいものを持ちたいと考え、作り上げた踊りです。

この踊りの構成は、農民の暮らしの中心である稲作に着目しており、田植えから始まり、秋の収穫、年貢納めに至るまでの一連の流れをストーリー化したものです。

踊り手が農具に扮し、傘を使って米ともみ殻を選別する唐箕や脱穀に使用する臼のほか、人が逆立ちをして精米に使用される台唐を表現するなどユニークな構成となっています。

(昭和46年3月30日指定)

## 野鳥

ウミネコ(海猫)  
チドリ目カモメ科  
大きさ46cm 翼開長125cm



港や波止場に行くと、猫のように「ニャー、ニャー」と騒がしく鳴くカモメの仲間です。日本の沿岸部、または近海のみで繁殖するため、地域によっては天然記念物に指定されている所もあります。カモメ類はよく似ていて、ウミネコの見分け方のポイントは、やや小ぶりな黄色のくちばしの先に、赤と黒の模様があるところですが、やはり鳴き声が一番分かりやすい方法です。漁港では、ちゃっかりおぼれ頂戴とばかりに食欲旺盛で、何でも食べるので個体数は少なくありません。カラスやカモメなどは人間の生活にも深く溶け込んだ結果、生態系のバランスが崩れ、人間たちにも悪影響を及ぼすようになります。人口が70億人を突破したとの報道がありましたが、野鳥どころか我々人類も行く先が気になるところです。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト⑤

# いんじちは市長です

## 災害に強いまちづくりを目指して



我が国は世界的にも災害の多い国です。地震や火山が多く、地質がもろく雨も多いため、洪水や土砂災害に悩まされ続けています。しかしその反面、四季折々の景色に彩られた風光明媚な景勝地や温泉などの保養地が近くにあり、さらには、多くの雨のおかげで育つ木々や農作物の恵みを受けています。また、災害を克服するためのたゆまぬ努力が日本の歴史では続けられており、勤勉で他人との調和を重んじる国民の性質も、このような災害との共存する歴史から生まれてきていると思います。

しかし、残念ながらこのような歴史を忘れ、災害を忘れて生活を送る人が増えつつあるのも事実ではないでしょうか。今年、大洲市でも平成17年以来の大きな被害を出しました。国、県、市という行政は、住民の多くの考え方によりその方向性が定まります。災害の危険性や防災対策の重要性、さらには、自然の猛威に対して人間の行えることには限りがあり、常により安全を目指して歩み続けなければならぬことなど、国民がいつも考えている環境を作り出すことこそ、行政が災害対策を進める上で最も重要です。災害という試練を乗り越え、生活していく努力を重ねてきたことが、勤勉な人間性を含めた素晴らしい日本人を作り出した源でもあると思います。災害に強いまちづくりとは、災害の危険性をいつも考えて行動する人づくりが第一歩ではないでしょうか。

# おおずの女性 く輝いて今

## 国際ソロプチミスト大洲 図書寄贈

心豊かな子どもの成長を願い、幼少期より本に慣れ親しむことを目的に、国際ソロプチミスト大洲による図書の寄贈が、市内8か所の保育所で行われました。

10月25日(火)には、三好副会長をはじめ3人の会員が南久米保育所を訪れ、8冊の図書を届けました。

図書は、会員から園児の代表に一冊一冊手渡され、受け取った園児はみんな笑顔で、図書を大切にうに抱えています。

園児たちは、「ありがとうございました」というお礼の言葉とともに、谷川俊太郎作詞の「ぞう」「いるか」の暗唱や「ふるさと」を歌うなどして、感謝の気持ちを表現していました。

また、会員のみなさんと一緒にフォークダンスを踊り、ソロプチミストの会員のみなさんが、園児を愛情一杯に抱きしめるシーンも見られました。

国際ソロプチミスト大洲による保育所への図書寄贈は、団体発足当初から続いており、16年間継続

して行っている事業です。会員のみなさんは、「今後も地域の子どもたちのために、図書の寄贈を続けていきたい」と話されました。

国際ソロプチミスト大洲は、本の寄贈の他にも、チャリティーバザーの開催、ごみゼロ運動、福祉と健康づくり「市民のつどい」への参加など、地域に貢献するさまざまな活動を行っています。

